

組んできた。

市民が自主的に企画運営する事業への助成については、自分達のまちは自分達で作るという意識の下、地域の創意工夫による個性豊かなまちづくり推進のためには、地域住民の交流促進やコミュニティ活動の活発化が重要になることから、先進地事例等を参考に、本市の協働のまちづくり推進の上で、より効果的な助成制度の導入に向けて検討を進めてまいりたいと考えている。

**（掲載以外の質問事項）**

- ・本市における放射能対策の現況と今後について
- ・動物愛護及び管理に関する条例制定の必要性について

**自治体の人材育成の考え方について**



福田一夫 議員

**質問** 地域課題をこれまで以上に形成し、政策立案化していく地域主権型組織確立に向け、行政改革大綱にも位置

付けられている、本市の人材育成の考え方を、方法的な部分も含めて伺う。

**市長**

本市では、職員のみならず、市民層の能力開発と資質の向上を目指し、昨年度、土浦市人材育成基本方針を策定した。

職員研修においては、自主研修、職場内研修、そして職場外研修、部局実施研修の4つの柱を中心に、組織一体となつて効率的、効果的な研修の充実を図っている。

さらに、勤務評定制度を平成18年度から実施するとともに、本年度から目標管理制度を導入し、職員の主体的な知恵と発想を引き出し、市全体の方針、目標を効率的、効果的に達成することでより一層の市民サービスの向上を目指している。

この他、担当職務への適性や新たな職務へチャレンジする意欲を把握する意向調査を実施するなど、能力と意欲のある職員の育成に努めており、今後も、様々な機会を通じて職員の育成を行い、組織力の向上につなげてまいりたい。

**（掲載以外の質問事項）**

・人事評価制度と外郭団体との人材交流について

・職員の海外派遣条例について

**水道事業における旧土浦市区の不明水のばらつき原因について**



古沢喜幸 議員

**質問** 水道事業において、旧土浦市区の不明水量が乱高

下することは、人為的に大量に水抜きが行われているのではないかと推測されるが、原因の徹底説明を求めます。

**建設部長**

配水場から配水された水量と各家庭や事業所で使用された水量の差が不明水量であり、その内、水道本管からの漏水等の原因の特定できないものと、原因が特定できない使途不明水に分けることができ、不明水量の約68%が原因の特定できない使途不明水となっている。

使途不明水のばらつきの原因の調査結果は、使用水量の検針日のずれと、季節による使用水量の変動の影響が考えられ、配水量の増加が水道管内の圧力を上昇させ、より多

くの量が漏水となつて流れ出すことが不明水量の変動にも影響を及ぼしている一つの要因と考えている。

現時点においては、不明水の主たる原因は、漏水が一番有力であると考えており、漏水箇所の早期発見や計画的な水道管の布設替えの実施により、使途不明水減少の取り組みを進めていきたい。

**（掲載以外の質問事項）**

- ・最低賃金を保証できる入札制度の確立を
- ・水道事業での新治地区の有収率低下の原因について
- ・市営住宅の家賃減免制度と入居資格の改善について

**常任委員会**

**行政視察**

各常任委員会では、議会活動の一層の充実を図るため、先進都市の優れた行政や施設などを視察し、今後のまちづくりに役立てていきます。

**総務委員会**

期日▶平成24年7月

9日～11日

場所▶北海道千歳市

苫小牧市・帯広市

**内容**▶入札制度の公平性、透明性、客観性及び競争性を確保し、より一層の向上に資するため、千歳市の事後審査型条件付一般競争入札制度を視察しました。入札参加手続きを簡略化した結果、入札参加業者が大幅に増加し競争性を確保しているとともに、入札後に落札候補者の資格審査を行うことで期間短縮を図り早期発注を実現しており、大変参考となる事例でありました。

苫小牧市では人口減少社会の進展に対応するため、「まちなか再生総合プロジェクト」を視察しました。都市のコンパクトシティ化によりまちなか再生を実現するため、「市営住宅まちなか移転事業」などを国の補助金を活用しながらさまざまな施策を展開するプロジェクトでありました。

また、帯広市では自治体の憲法といわれる「まちづくり基本条例」について研修しました。策定に当たっては、実効性のある条例とするため、より多くの市民意見を反映させるための方策を実施しており、大変参考となる事例でありました。